

烏森トレッキング回想記

第四回

日時：'99. 5. 22 (土) ~ 5. 23 (日)

概略行程：

1日目 ^{いくさばた}軍畑駅~^{たかみずさん}高源寺~^{いわたけいしさん}常福院~^{そうがくさん}高水山(759m)~岩茸石山(793m)~惣岳山(756m)~御岳駅~御岳平~ 宿泊/南山荘

2日目 ~長尾平~ロック・ガーデン~綾広/滝~長尾平~御岳平~御岳溪谷~御岳駅

メンバー：齋木、米本、吉川、森、磯崎

森氏が初参加。冬枯れ期の訪問が良とガイドされる、初心者向けの代表コース、「高水三山」を新緑に登る。

一山目、「高水山」は、取り付き直ぐから急登の連続。

沢沿いの道を登り切るや、次は、「木の根」が露出する針葉樹林の急坂が続き、最後はロープでガイドされる登山道造成中の工事道、胸の高鳴り休む間も無し。

尾根近くで、微風に揺れる広葉樹の森が拡がり、最後は、起伏少なく緑豊かな「常福院」への道。

山頂は裏手の小丘陵となるが、事実上、院がその役割を果たし、花満つる庭のそこかしこで、日溜まり求めて休む人、弁当広げて食事する人とハイカーが憩う。

昼食は二山目、「岩茸石山」。

唯一山頂らしく、北面側には、東京都と埼玉県の都県境界線を引く「^{ぼうのみね}棒の嶺(969m 別名、「棒折山)」を展望し、急坂の尾根道でも繋がる。

人の多い山頂から少し下り、山斜面の草むらにシートを敷き、各自持参の弁当を開く。毎度のことながら、歩いた後の食事は格別の旨さで、「カップ入り減塩味噌汁」は、前回の「カップ麺」に続き大好評。

三山目、「惣岳山」は登山道の崩壊が気になる赤い山。

山頂の、小さな広場中央に、「青渭神社」の神殿が建つが、樹林に囲まれ展望はなし。御岳から登る途中、水場、「真名井ノ井戸」在るが取り柄も、夏場は涸れることが多く、今回も汲むこと出来ず。

三山を登り終え、御岳へと下る。下山路は、若干長く、そこそこの急坂続き、膝への負担が少々懸念。

途中、御岳駅で待ち合わせの会頭から、状況確認の電話が携帯に入り、約束の15:0

0が迫っていることから、メンバーに今一層の奮闘を願うが、「心」と「体」は別物と、下山速度に一向の変化無し。

止むなく、森氏が事情説明に先行下山し、約束の時間に約30分遅れで合流、御岳の宿へとバスに乗る。

【余談11】最近、携帯電話での安易な救助依頼に批判が高まっている。

詳細不勉強で、不正確な点もあるが、救助依頼の一次通報先は種々であるが、最終的には地元の自治体（具体的には（山岳）警察、消防署等が連携）が対応窓口となり、レスキュー活動が開始される。

その際発生する費用は、現時点、原則的には地元自治体の負担で、家一軒分の費用が発生すると巷間云われるのは、遭難関係者等が、個別に民間レスキュー隊の出動を要請する場合である。

山岳県と呼ばれる長野、富山、山梨県等では、レスキュー体制の維持・管理に加え、相当額の搜索費用予算組みを強いられているようだが、最近では、一部、再考したいとの発言が出始めている。（'04初頭、長野県が搜索ヘリ有料化の検討開始を発表。また福井県は'04.2の関西学院／ワングル搜索に対し一部費用の請求も！）

しかしその一方で、携帯連絡による救出事例が増えているのも間違いない事実で、現時点、問題の存在を認めるにしても、その効用も認めざるを得ず、今しばらく今後の議論を見守りたい。

我がパーティも、毎回、メンバーに携帯電話の持参を願っている。

経験の通り、場所、機種により通話事情は一様でない。山岳登山では、通信確度の高いトランシーバー利用が一般的であるが、通話の可否はともかく、自身の居場所認識が薄いメンバーには、万一を考え、今後とも、携帯の持参を薦めたい。

ただ、同一車内で通信会話を笑いこけるは、他人に気味悪く、山頂から家人、知人に自慢するは野暮千万と心得るべし！

宿は初めての「南山荘」。

「日の出山」に近く、木の香匂う良宿で、もてなし、料理共、「登奈利荘」に遜色なし。

楽しい宴に妙なる噂。

上りのケーブルカー内で不審な会話を耳にしたと云い、内容、極めて不謹慎につき、具体的団体名等の公表は控えるが、内容は概ね以下の通りである。

“〇〇さん、^{チョコチョコ} **の鳴き声をテープに収録してきましたので、万一**が居なかった場合でも、**の鳴き声は流せますのでご安心下さい。”

○・ヘンリー、「最後の葉」の心遣いとは、似ても似つかぬ愚行にて、腹が立つこと頻り、それを喜ぶ会員 人が居るはずもない！

翌日も快晴に恵まれ、長尾平からロック・ガーデンを歩く。

若葉は眼に優しく、なお至る所、新芽の息吹き盛んにて、青葉透かして溪流見るは爽快の極み。

しかし、そうしたことに心が向かず、我らと前後して歩く男女二人を、“年が離れ過ぎているのでは”とか、“昨日の「~~仏法僧の鳴き声を聞く~~ 会」のメンバーでは”とか、世俗に浸る不届きなメンバーが若干名。

“ええ年して困ったもんじゃのお。いらんことを考げえるのは、まだまだ運動量が足らんのじゃろうか、次回の参考にせにゃ”、と雑念浮かび、あつと言う間に流れに転倒、“どげんなつとんじゃあ！”

長尾平に戻って昼食。

初めて宿で手配した「握り飯し」に、缶詰、味噌汁を付け、最後は森氏持参のドリップ・コーヒーで仕上げのフル・コース。

隣の熟女パーティは、麺料理か、大鍋に連結火器で湯を沸かす。何ともダイナミックと羨ましがるが、我がパーティに、かの道具運ぶ甲斐性、有りや無しやと一思案。

真っ青な空を仰ぎ、新緑を揺らす五月の風を胸一杯吸い、しばし休息。

前夜の件、万が一、鳴き声が聴けなくとも、初めての参加者に紹介するための、単なるデモ・テープの準備ではとも思い直す。

長尾平の五月は明るく、早、初夏の候。